



ジョン シュワチュケは、1943年アイルランドのダブリンでオーストリア人とアイルランド人の間に生まれた肖像画家である。シュワチュケはもともと、コンサートのピアノ奏者と作曲家になりたかった。実際、クラシック音楽と自分の曲のピアノ独奏会をウォーターフォード、ヴェヴェー、トゥールーズの3ヶ所で開催した。しかし学校を卒業した後、仲がよかったアイルランドのデ ヴアレラ首相(国立大学の学長時代にシュワチュケが肖像画を描いたことがある)に「なにか一つをしっかりとやり遂げろ」と説得され、シュワチュケはそれが美術だと思った。シュワチュケは首相のアドバイスどおり、きちんと絵を描きつづけた。シュワチュケの絵画でのキャリアは、建築学と国王の銀行家のもとに大規模な建造物の企画部長として働いていた中東での職ほど大切ではなかった。しかし、シュワチュケはパブロ ピカソが住んでいたムジェンの近くであるプロヴァンスに1970年から1979年まで自分のアトリエをかまえつづけた。ここはのちにヴァルボンヌ村のためのシュワチュケ美術館が計画されることになったところでもある。しかし、政府の規則によりその計画が行われなくなり、その代わりにシュワチュケ家の近くであるアイルランドのカーロウに建設されることになった。(1976年にオーストリア大使によって開館され1994年に閉館された)後に、シュワチュケは年老いた両親の面倒を見るためにアイルランドへ帰国し、1996年に再びフルタイムで絵を描き始めた。それ以来、シュワチュケの風刺画はアイルランドとロンドンの美術市場でとても人気がある。シュワチュケはアイルランドのデ ヴアレラ首相、イングリッド バーグマン、シリル キューザック、ノエル パーセル、フィッツリッパ王子(肖像画、1979年に描かれた)、ダブリンのシムス大司教とマカドゥー大司教、ロバート ミッチャム、ルニマス チェホスカ(モジリアニのモデル)その他ヨーロッパとアメリカでたくさんの人からひいきにされてきた。ロンドンの旧グロウチェスター通り27番地にあるシュワチュケ美術館(事務所のみの)の記録によると、シュワチュケは現在までに1450の絵画と銅像を世に送り出している。これらの作品は、まもなくアイルランド国立美術館が手に入れることになっている。

出版物：「画家との対話」ミドウロー(1994年)

「シュワチュケー伝記と初期1000作品のカatalog・レゾネ」メアリー ロバートソン(ミネルバ出版・ロンドン／ワシントン)

引用：「シュワチュケが特に風刺画シリーズにおいて最終作品を描き終えたのは疑いの余地がない。最終的な分析によると、シュワチュケの作品は、批評を十分に受け入れていて、国際的な美術市場ではこれが作品の根幹だと考えられている。シュワチュケの肖像画におけるテーマの選択や感情の描写などは特別なものであり、個人的な勘から来ていることを示している。これはシュワチュケの個性と信念に基づく直筆のサインと言えるであろう。」ロゼンバーグ(ニューヨーク)